

# 2025年度(後学期)学生による授業評価アンケートについての総評

2026年02月13日

浦安キャンパス FD・SD 委員会

2025年度後学期に浦安キャンパスで行われた「学生による授業評価アンケート実施結果」(各学部学科および各センター)の集計結果について、以下のような総評を提示する。

## 1 アンケート実施の概要

### (1) 実施期間等

\* HT 学科 (GMM) FT1 科目 : 2025 年 10 月 18 日 (土) ~ 10 月 31 日 (金)

→ アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 11 月 04 日 (火)

\* HT 学科を除く全学科 : 2025 年 12 月 03 日 (水) ~ 12 月 16 日 (火)

→ アンケート集計値を Web ポータルシステムで公開 ⇒ 12 月 17 日 (水)

\* 中間フィードバック : 講義期間中の任意の時期 (講義担当教員の裁量によって実施時期を決定した)

→ (授業改善の PDCA サイクル促進のため、教員は授業期間中の任意の時期に授業評価以外の任意の方法で学生から授業に関する意見等のフィードバック (中間フィードバック) を受け、それを可能な範囲で当該学期中の授業改善に取り入れ、過去の事例を含め、改善された事項等を学生に伝えることとした。集計結果分析及び授業改善策の作成に際しては、その結果について記載するよう努めた)

### (2) 対象授業科目

\* 各教員がアンケート実施時期に担当している全講義を対象とした。

(ただし、ゼミ科目、履修者数 5 名以下の授業科目および再履修者のみが履修する授業科目を除いた。また、1 教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合、履修者最多の授業科目を対象とする。なお、FD・SD 委員長が必要と認めた授業科目は追加した)

### (3)実施方法

\*講義受講生は、アンケート実施期間中に、PC やスマートフォンなどを利用して、アンケートの回答を行った。

\*アンケートは、全講義の共通設問に加え、設問内容を講義担当教員が自由に設定できる設問(B-1・B-2)を設定することができ、このアンケートを実施する場合は、教員はアンケート実施期間初日の前日までに、manaba のコースニュースによって受講生に質問内容を伝えた。

→HT 学科(GMM)FT1 科目：10月17日(金)

→HT 学科を除く全学科：12月02日(火)

### (4)周知方法

アンケート実施についての概要は、実施期間1週間前までに Web ポータルシステム等で学生および教員に周知した。

→HT 学科(GMM)FT1 科目：10月11日(土)

→HT 学科を除く全学科：11月26日(水)

### (5)その他

アンケートの内容、集計、公表、事務およびその他の事項は、「2025年度学生による授業評価アンケート実施に関する取扱い」に従った。

### (6)回答区分

アンケートの設問に対する回答は、5段階評価(5.満足、4.やや満足、3.どちらともいえない、2.やや不満、1.不満)で行われた。

### (7)アンケート集計結果等の活用方法

アンケート集計結果等は、次のような用途に活用される。

\*担当教員の授業改善努力の促進

\*担当教員への授業改善の提案

\*カリキュラム改善のための基礎資料

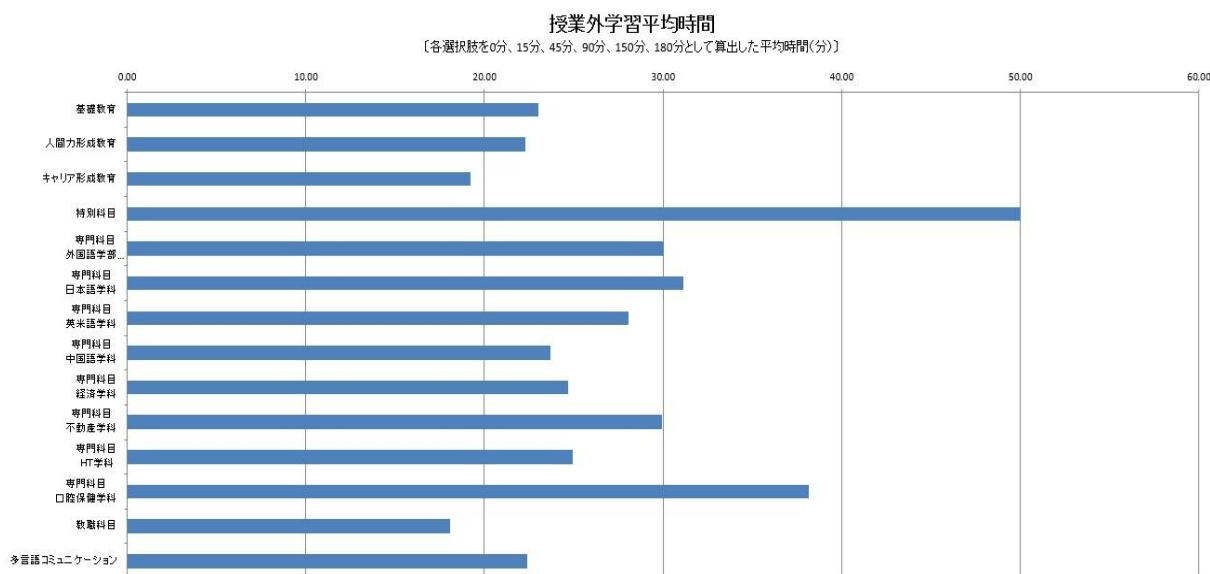
\*FD・SD活動のための基礎資料質問項目

## 2 アンケート結果の考察

表 1：科目区分別アンケート集計結果

2025年度後学期授業評価アンケート集計結果(科目区分別)																	明海大学浦安キャンパスFD・SD委員会	
		全体	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 GS関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 HT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュニ ケーション		
対象科目数		554	20	44	22	16	32	33	72	20	88	39	75	34	21	38		
履修者数		20,500	576	2,600	869	261	923	1,227	1,415	240	4,860	2,848	1,547	1,425	412	1,297		
回答者数		7,446	306	762	559	162	359	503	542	127	1,301	876	870	469	196	414		
部門	No.	質問文	基礎教育	人間力 形成教育	キャリア 形成教育	特別科目	専門科目 外国語学部 GS関連科目	専門科目 日本語学科	専門科目 英米語学科	専門科目 中国語学科	専門科目 経済学科	専門科目 不動産学科	専門科目 HT学科	専門科目 口腔保健学科	教職科目	多言語コミュニ ケーション		
		平均時間(各選択肢を0分、15分、45分、90分、150分、180分として算出した平均時間(分))	23.04	22.30	19.21	50.00	30.04	31.14	28.09	23.71	24.71	29.95	24.94	38.15	18.06	22.37		
A-1	1	振書(入力の文字・画像等)・配布物は読みやすかったですか	4.56	4.46	4.53	4.78	4.53	4.63	4.59	4.69	4.52	4.21	4.59	4.21	4.73	4.55		
	2	教員の説明はわかりやすく、授業の進み具合は適切でしたか	4.52	4.45	4.53	4.78	4.56	4.67	4.55	4.72	4.53	4.20	4.61	4.21	4.73	4.55		
	3	授業の内容をよく理解できましたか	4.36	4.31	4.39	4.74	4.38	4.56	4.41	4.50	4.37	4.01	4.45	4.15	4.71	4.47		
	4	教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか	4.52	4.40	4.50	4.78	4.48	4.63	4.53	4.65	4.50	4.20	4.54	4.30	4.73	4.57		
	5	授業はシラバス(入の内容)に沿って実施されていましたか	4.55	4.44	4.49	4.73	4.52	4.62	4.58	4.61	4.55	4.24	4.57	4.37	4.67	4.57		
	6	この授業で興味や関心が深まりましたか	4.17	4.36	4.25	4.70	4.34	4.57	4.45	4.43	4.34	4.09	4.48	4.16	4.70	4.45		
	7	この授業に対するあなたの満足度をお答えください。	4.39	4.42	4.38	4.71	4.46	4.62	4.48	4.62	4.47	4.14	4.56	4.20	4.72	4.53		
B-1	8	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
B-2	9	(教員自由設定項目)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

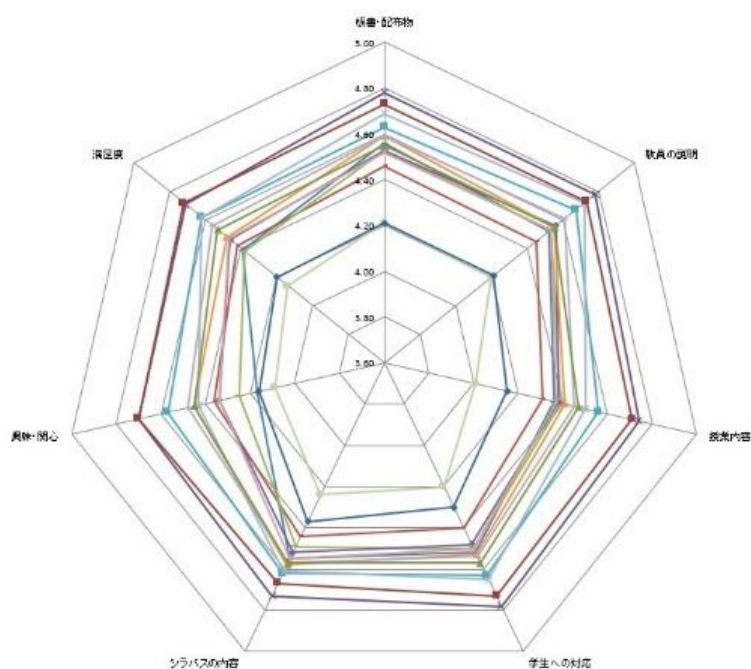
図 1：授業外学習平均時間



### (1) 履修者数および回答者数について

表 1 および図 2 は、浦安キャンパスで講義を提供する全部署における、科目区分別アンケート集計結果を示したものである。履修者数は延べ 20,500 人、回答者数は 7,446 人となった。表には回答率は示されていないが、前述の 2 つ人数から単純に算出される回答率は、約 36.32%となる。この回答率の解釈は難しいが、一般論として高いとはいえないであろう。この数値は授業評価アンケートのものであるが、各部署(各学科および各センター)においても、また、学修成果等アンケートにおいても、低回答率が学制的な懸案事項となっている。今後、回答率の向上に資する努力が求められる。

図 2：アンケート設問別回答平均値(部署別)



前学期の総評でも言及したが、東(2018)は、学生調査において回答率が 20%程度であっても、その大学における学生全体の学修行動の質的な特性は、多くの場合は概ね把握できるが、そのようなケースでは、少数の際立った特性が強調されやすいと指摘している。そして、安定的な結果を得るためには 60%程度の回答率が求められるとも述べている。この点についての詳細は、以下の論文を参照されたい。

\*東 京一(2018)「学修行動調査における回収率とその結果の関係—回収率 3 割や 6 割の調査結果は何を伝えるか」『第 7 回大学情報・機関調査研究集会論文集』, pp. 20-25. (DOI: [https://doi.org/10.50956/mjir.7.0\\_20](https://doi.org/10.50956/mjir.7.0_20))

## (2) 平均学習時間について

図 1 は、授業外の学習平均時間(部署別)を示している。最大値でも 50 分程度という結果となった。学生は平均的に、1 学期あたり概ね 20 単位、またはそれ以上の履修申告をしており、各講義で課される課題や宿題に取り組むだけでも(良質な成果を想定するならば)50 分(あるいはそれに満たない時間)での対応は不可能であろう。ゆえに、今回の結果は、実態を反映していない可能性が高い。そうでなければ、浦安キャンパスでは講義外学習時間が 50 分に満たないような状態でも単位が認定されてしまう講義が行われていることになるが、それも信じ難いことである。したがって、何らかの原因によって実態を反映していない結果を得たと理解すべきであるが、そもそも回答した学生

が、講義外学習時間をいかなる定義で捉えているのかも調べる必要がある。

なお、結果表の解釈について、次のようなことがいえる。各部署において行われている講義は、それぞれ異なる性質を帯びた内容、性質、形態で実施されていることから、授業外の学習時間については、単に平均値を部署別結果の棒グラフで検討するということに積極的な意味はない。むしろ、講義形態や分類ごとに見た回答の分布を把握することが重要である。この観点から、散布図、算術平均、四分位偏差、標準偏差、分散などの統計的指標を示し、結果の多角的な検討が求められていると判断する。

### (3) 設問別回答平均値について

表 1 の中段および図 2 は、アンケート設問別回答平均値(部署別)を表している。結果として示された項目の全数値が 4 を超えており、項目別の顕著な差を捉えることができないため、具体的な考察が困難である。単純に解釈すれば、回答した講義受講生は、浦安キャンパス内で開講されている講義を高く評価していることになる。しかし、そのような理解が妥当であろうか。上述の東(2018)の指摘を考慮すれば、今回の集計結果は、約 36%という低回答率のもとで特定の層の際立った特徴が強調されたものかもしれない。さらに、授業外学習平均時間が著しく短い回答者が講義評価を行うのに適切な資質を有するのかもしれないということも潜在的な問題である。したがって、今回のアンケート結果集計値を額面通りに理解することは、必ずしも適切でないと考えられる。

### (4) 講義担当教員によるアンケート結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>について

講義アンケートの結果を検討する際は、学生が示した回答の数値のみならず、教員が提示した、集計結果に対する<以前からの課題>・<中間フィードバック>・<改善案>・<学生向けのコメント>の内容を分析することも必要であろう。

この項目について、教員の切実な苦悩が報告されている。本報告書では、その一端をレポートするが、指導の現場での困難に直面している教員の苦勞を窺い知ることができるものばかりである。

まず、前学期と同様に、受講生の私語についての指摘がある。注意しても私語を止めない者がおり、それが講義に支障をきたしていることが、複数の教員から報告されている。

また、講義中、継続的にスマートフォンを操作していて講義内容を無視している学生、

講義中に教室を出たり入ったりして講義進行の邪魔になっている学生が、一定数、存在しているという報告がある。しかし、そのような困った学生に注意を与えるために講義を中断することが講義の進行を遅延させ、真面目に講義に参加している学生の意欲を削いでしまうという困難が生じていることも指摘されている。このような状況が改善されなければ、有望な学生が本学の状況に絶望して、再受験で他大学に流出してしまうという、好ましくない事態が導かれる可能性がある。これは本学の将来にとって、深刻な懸念材料である。

講義の予習・復習の時間が不足していることも指摘されている。ある教員は、アンケートによって、講義 1 回あたりの予習・復習時間が 1 時間未満の受講生が 80%を越えていることを把握し、それは、講義理解はできていてもその後の見直しが不十分であること示していると主張している。他のある教員は、7 割以上の学生が予習・復習をほとんど行っていないとし、授業内外の学習を、より効果的に関連付ける工夫を行うことで予習・復習を促し、理解度の向上を図る必要があるという認識を示している。他方、the amount of time spent studying for this class outside of the classroom を増大する、つまり講義外学習時間の増大を受講生に求めている教員もいる。さらに、授業だけですべてを理解しようとせずに、授業外の時間を予習・復習に充てることを徹底してゆく必要があるという記述も見られた。これらの指摘は、受講生の講義理解には、講義を担当している教員の努力のみならず、受講生本人の自助努力と学習意欲が必要であるという、本来は当たり前のことを語っている。しかし、本学の現状はそうならないことが、教員から示されたことになる。

一方、学生の読み書き能力についても、以前からさまざまな問題が指摘されてきた。今回も、たとえば、受講生の中には、大学入学前に文章を書く訓練をほとんど受けていないと見受けられ、レポートや定期試験の答案作成に支障をきたしている者が、少なからず存在するという指摘が成されている。さらに、ここ数年、課題、レポートの答案、そして卒業論文の作成にインターネットや Chat GPT などを使い、それらから得られた情報をそのままコピーするという学生の剽窃行為の多発が、教員から指摘されている。ある教員は、最近の学生が tend to be too accustomed to using their smartphones or PCs to look things up on the internet or with AI in their studies であると指摘しているが、いずれにせよ、学生のインターネットや AI などの不適切利用に起因する剽窃行為に対する教員の懸念が増大していることは、無視できない問題である。この問題については、直ちに、インターネットや AI などの利用についてのガイドラインを学生に公表するなど、適切

な指導を行う必要がある。

### ③ アンケートの結果に基づく今後の課題と残存する問題

この報告書では、2025年度後学期における講義アンケートの集計結果に現れた、さまざまな問題を検討した。あらゆる問題が、教員にとって、このまま放置すべきでなく、可及的速やかに対策が施されるべきものである。他方で、アンケートの実施方法に関わる改善すべき点、質問項目にまつわる修正すべき問題もあろう。

特に、②(4)で扱われた項目は、場合によっては留学生を下回る日本語能力を有する日本人学生が散見される特殊な環境において指導を担当しなければならない教員にとって、深刻な問題を表わしている。もちろん、講義運営の円滑な運営と学生との有意義なコミュニケーションの指摘も成されていたが、それらはこのまま維持すればよい項目であるというにすぎないのである。今、大学として真剣に検討すべき喫緊の課題が、②(4)に表わされた困難に対する取り組みであることは明らかである。